

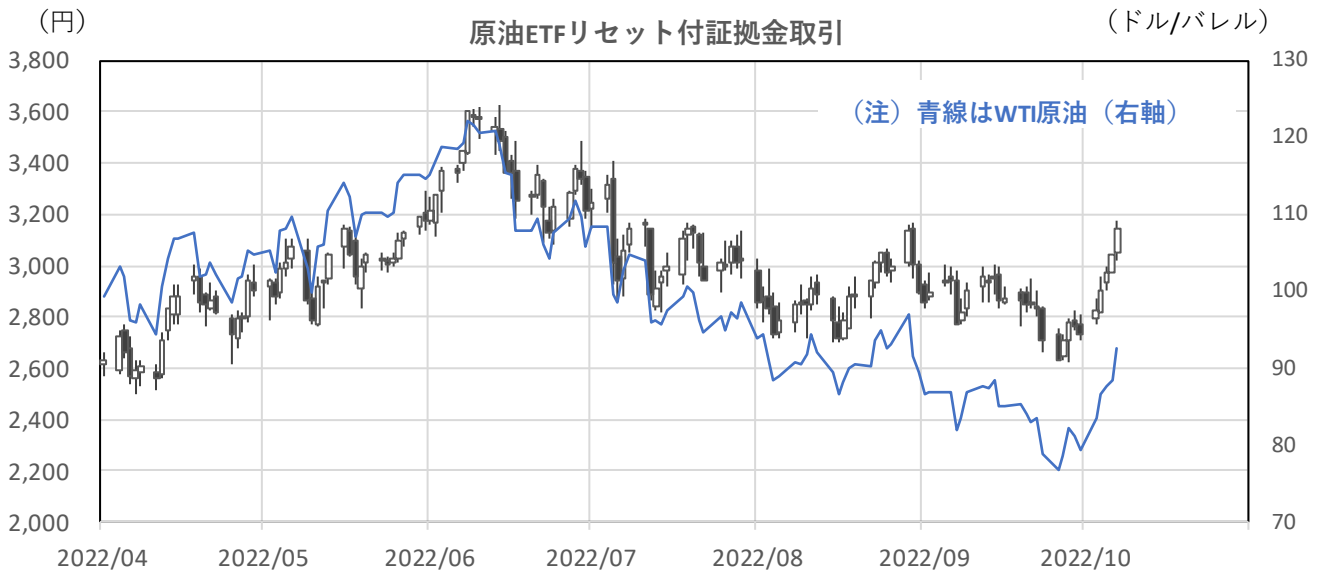
原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/10/11号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



【現状確認】



OPECプラス大規模減産で急伸

NY原油先物相場は、1バレル=90ドル台前半まで急伸する展開になった。9月は需要不安とドル高を背景に一時76.25ドルまで値下がりしていたが、月末の79.49ドルに対して10月7日高値は93.31ドルに達した。10月5日に石油輸出国機構（OPEC）プラス会合が開催されたが、11月の生産枠を8月比で日量200万バレル引き下げることが決定された。これを受けて、国際原油需給のひっ迫見通しを織り込む動きが優勢になり、大きく値上がりした。

日量200万バレルは世界石油需要の約2%に相当する規模であり、国際原油需給見通しに大きな修正を迫り得る数値になっている。実際の産油量ではなく生産枠をベースにしているため、実際の減産幅は「日量100万～110万バレル」（サウジアラビアのアブドルアジズ・エネルギー相）程度に留まるとの見方が強いが、それでも極めて大きな規模であることは間違いない。今後は冬の需要期に向かう一方、12月には欧州連合（EU）のロシア産石油禁輸措置も発動することになり、需給ひっ迫が警戒された。

米エネルギー情報局（EIA）の米石油在庫（9月30日時点）は、原油が前週比136万バレル減、ガソリンが473万バレル減、石油精製品が344万バレル減となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

【展望】

OPECプラスの大規模減産決定で、価格は上振れ傾向に

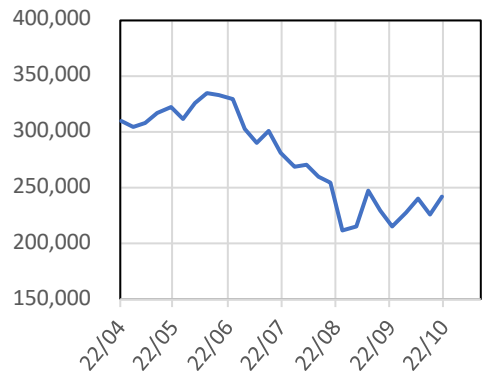
OPECプラスの大規模減産決定を受けて、原油相場の地合は強気に傾いている。日量200万バレルの減産合意が実行されると、年末に向けて改めて需給ひっ迫傾向が強まる見通し。実際にどの程度の減産量を確保できるのかは不透明感もあるが、少なくともサウジアラビアやUAEなど主要産油国は減産対応を本格化させることになる。90ドル台定着から更に上値切り上げが打診され易い。100ドルの節目まで上値抵抗は切り上がる。

加えて、西側諸国がロシア産石油価格の上限設定を巡る動きを本格化させていることも、原油相場を不安定化させる。一定価格以上のロシア産石油の取引や輸送、保険などを制限する制裁になるが、ロシアは自国産石油に対する需要が落ち込めば、減産を行うと警告している。仮にロシアがOPECプラス合意とは関係なく減産に踏み切ると、EUのロシア産石油禁輸措置の発動を待たずに、国際原油需給が強力に引き締まる可能性がある。

米政府はこうしたOPECプラスの動向に強い不満を示しており、戦略石油備蓄（SPR）放出も含めた対抗策の検討を行っていることを明らかにしている。ただ、これまでの原油高、需給ひっ迫でSPRは既に大規模な取り崩しが行われており、更にSPR放出が可能なのか、妥当なのかについては議論がある。

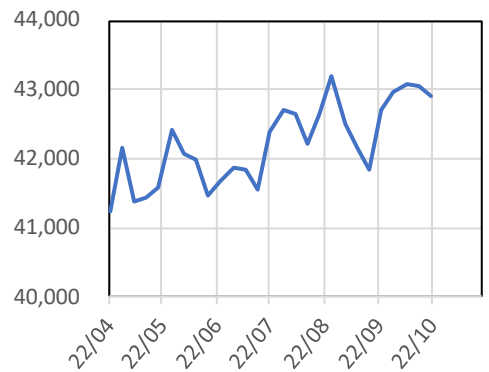
一方、10月13日には9月米消費者物価指数が発表される。ここでインフレ警戒感が蒸し返されると、米長期金利上昇、ドル高、株安といった外部環境が上値を圧迫するリスクがある。また、10月16日から中国共産党大会が始まるため、中国経済動向を巡る思惑もイベントリスクになる。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



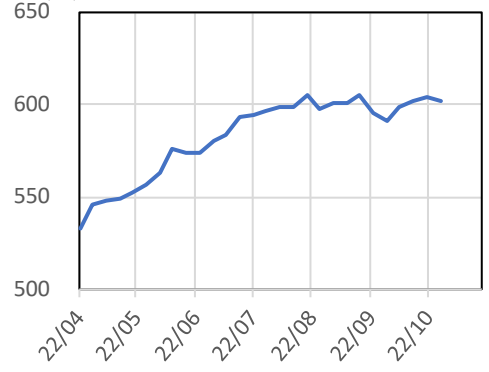
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1（古川ビル4F）

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 info@marketedge.co.jp

小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は
ツイッターで

